

ムネアカハラビロカマキリ (カマキリ目カマキリ科)



■見分け方

- 成虫と大きな幼虫は腹部がピンク色(ハラビロカマキリはうす黄色に黒斑がある)
- 手(腕の部分=基節と言います)の小さな突起が8-9個ある(ハラビロカマキリは大きな突起が3つ)
- 胸(前胸)の部分が長い
- 卵鞘は白っぽく、ピロード状



ハラビロカマキリ

ムネアカハラビロカマキリ

■見られる場所と時期

成虫は9-11月、見分けられる幼虫は夏頃から、比較的明るい草原や林縁に生息します。
卵鞘は11月から翌年の5月頃まで見られますが、幼虫が産まれた古い卵鞘も1-2年残されています。

■どのような問題があるのですか。

繁殖拡大した豊田市の例では、ムネアカハラビロカマキリが繁殖すると、ハラビロカマキリが見られなくなる傾向がみられ、同じように生活する在来のハラビロカマキリを駆逐している可能性があります。また、一般にカマキリはスズメバチと同様、陸上昆虫の食物連鎖の頂点に君臨する昆虫で、多くの昆虫を食べて生活しますので、知らないうちに多くの生き物が少なくなっていく可能性も考えられます。

■いつ頃から見られますか。

日本で最初に発見されたのは、福井県で2010年のことです。2011年に岐阜県や愛知県の豊田市でも見つかりました。2014年秋現在、名古屋市やその周辺市町でも繁殖していることがわかっていますが(未発表です)、どこまで拡大しているか、また在来種であるハラビロカマキリがどれだけ少なくなっているかは全くわかりません。

参考文献

藤野勇馬・岩崎 拓・市川顕彦(2010) 福井県敦賀市でハラビロカマキリ属不明種の成虫と卵囊を採集. 昆虫と自然 43(5): 32-34.

市川顕彦(2014) 愛知県・岐阜県・福井県で採集されたハラビロカマキリ的一种について. 月刊ムシ 524: 17-22.

間野隆裕・宇野総一(2014) 豊田市におけるハラビロカマキリとムネアカハラビロカマキリの分布動態と形態について. 矢作川研究 18: 11-18.

間野隆裕・宇野総一(2015) 矢作川流域におけるムネアカハラビロカマキリの分布拡大. 矢作川研究 19: 107-112.

山崎和久・Schütte Kai・名和哲夫・土田浩治(2012) ムネアカハラビロカマキリ(仮称)の日本からの発見と分布に関する報告. 日本昆虫学会第72回大会講演要旨.

文責：間野隆裕

タイワントケクマバチ（ハチ目ミツバチ科）



■見分け方

- ・成虫の胸部はクマバチに比べ黒い
- ・成虫全体がクマバチに比べ細くやや小さい

■見られる場所と時期

成虫はほぼ1年中見られますが、特に春から秋にかけて活発に花の蜜や花粉を求めて飛び回ります。直径3センチくらいの細い枯れた竹の中に直径0.8センチくらいの穴を空けて、巣を作りそこで幼虫を育てる。晩秋から春にかけては園竹の巣穴に入り越冬する。多い場合は10頭以上の成虫が一つの竹の中に身を寄せ合って越冬します。

■どのような問題があるのですか。

花粉を利用するほかの昆虫とくに在来のクマバチとの競合が懸念されます。岳に穴をあけるため、竹材利用に影響を及ぼす懸念があります。

■いつ頃から見られますか。

2006年5月と8月に愛知県豊田市（合併前の旧豊田市市域）で日本で初めて発見され、翌年岐阜県安八町の長良川河川敷でも得られました。その後豊田市では、2007年に繁殖が確認され、多数の個体が数地域で得られ、現在名古屋市を超えて岐阜県や、南部では静岡県にまで広がっており、他の県でも確認記録がみられるようになりました。

参考文献

神尾宏司, 2007. 愛知県豊田市におけるタイワントケクマバチの確認記録について. つねきばち(12) : 21-25.

川添昭夫, 2008. 豊田市に侵入していた外来種「タイワントケクマバチ」. 矢作研月報Rio(123) : 2

ー3.

間野隆裕, 2012. タイワントケクマバチ. ブルーデータブックあいち2012 : 111. 愛知県.

岡部貴美子. 2010. 豊田市に定着したタイワントケクマバチは悪者だろうか?. 矢作研月報 Rio(143) : 1-2.

岡部貴美子・升屋勇人・川添和英・間野隆裕・牧野俊一 . 2010. タイワントケクマバチの侵入と随伴ダニのリスク. 第54回応用動物昆虫学会講演要旨 : 157.

岡田正哉・竹田恭子. 2009. 愛知県豊田市で越冬中のタイワントケクマバチ. 月刊むし(461) : 59-60.

佐々木隆行・山岸健三. 2011. 外来種タイワントケクマバチの分布拡大と生態(3) . 日本昆虫学会第71回大会講演要旨 : 45.

矢田直樹, 2007. 愛知県と岐阜県におけるタイワントケクマバチの採集記録. 月刊むし(439) : 39-40.

文責 : 間野隆裕